

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会科】

1. 対 象 2年生

【学習状況】

- ・地理的分野においては、1学期に「世界の中の日本」を履修している。
- ・地形の面からは、環太平洋造山帯に属していること、複数のプレートの上に国が位置していることから、世界の中でも火山や地震が多い国であることを学んでいる。そのため防災に向けた取り組みが多く行われていること、温泉や地熱発電などの生活にも地形や自然環境を利用する工夫があることを学んだ。
- ・気候の面からは、山地が多く、南北に長い地形や周囲を海流が通ること、そして一年を通して季節風の影響を受けることで同じ国でも地域によって様々な気候の特色を持つことを学習した。
- ・その他にも、日本は鉱産資源の自給率が低く、エネルギー面で他国に依存していること、交通・通信が発展したことで生活が大きな影響を受けていることを学習した。

【課題とねらい】

現状としては知識のつながりがまだ弱く、地域の分析をして、より良い地域づくりに参画していくための深い知識・学びに至っていないと考えている。そこで、日本の諸地域の単元では、「地域をより良く持続可能にしていくために、どのようなことを重視した取組が行われているのか」を各地域の小単元ごとに単元を貫く問として設定する。同じ国でも地域が違ふことで自然的条件や社会的条件が異なることに注目させつつも、地域ごと「持続可能にしていく」という共通の目的を持って取り組みをしていることから、地域の特徴を考察させていきたい。

最終的には、今、これから自分の住んでいる地域をより良くするにはどんな取組をするかを考えるときの視点として、本単元で学んだことを活用できる生徒になってほしいという狙いを持って、授業実践を進めていきたい。

2. 単元名 「日本の諸地域 近畿地方」（全5時間）

3. 単元の目標

知識及び技能	近畿地方で、持続可能な社会づくりのための取組や発生している課題を考えることを通して、自然や気候、地名などの知識や取組の状況を知ることができる。
思考力, 判断力, 表現力等	近畿地方で行われている取組を多面的・多角的な視点から考察することを通して、この地域が持続可能になっていくために、特に環境保全が重視されていることを学んだ人々の取組を根拠にして、表現することができる。
学びに向かう力, 人間性等	近畿地方でどんなことを重視して、持続可能な取組をしているのか粘り強く考察することを通して、近畿地方が環境保全を重視した取組をしている地域であると気付く、自分が住んでいる地域に当てはめて環境保全に関する取組を考えようとする。

4. 言語活動

第3時「近畿地方を持続可能にしていくために、人々が重視しているのはどんなことだろう。」という課題を解決し、深い学びを実現するために、本単元で主となる言語活動を設定する。

- ①第1時で近畿地方の自然環境と暮らし、第2時で産業について調べているのでこれらを根拠にして3時の課題の予想を立てて、3～4名程度のグループを編成し、予想した考えを共有する。
- ②予想をもとにして、地域を持続可能にしていくために重視されていそうなことをダイヤモンドランキングでまとめていく。その際に、順位付けの根拠として、これまで学んできたことや話し合いの際にわかったこと、タブレットで調べたことを根拠として示すように声掛けをする。
- ③グループで意見をまとめたら、代表発表者を選出し、ワールドカフェ方式で他のグループの発表を聞く。意見を聞く際は「自分のグループとの共通点と違う点」に着目して意見を聞く。
- ④聞いた意見をグループに持ち帰り、再度、学習課題の答えを話し合い、結論と根拠を確認する。

5. 本時の目標

人々が、近畿地方を持続可能にするためにどんな考え方を重視して取組を行っているかを、既習事項を根拠として考察する活動を通して、近畿地方では「環境保全」を重視された取組が多くみられることを説明することができる。
(思考力, 判断力, 表現力等)

6. 授業展開

解決したい課題や問い

近畿地方が「より良く持続可能」になっていくために、人々はどんな考え方を重視して取組を行っているのか。

考えるための材料

(1)第1時の学習内容

近畿地方の自然環境と人々の暮らし(大阪大都市圏・琵琶湖水系との関わりを中心に)
「近畿地方の地形(周囲を山地に囲まれている、日本最大の湖である琵琶湖がある)や気候」
「人々の暮らしや取組、課題」

(2)第2時の学習内容

近畿地方の産業
「各産業における環境保全の取組」「琵琶湖の水源保護の取組(特に工業)」
「歴史的景観保護の取組」「林業と漁業の持続可能にするための取組」
「かつて都があり、文化の中心となっていたことが県工業と関連していること」

想定される活動

- ①第1時で「近畿地方の自然環境と人々の暮らし」第2時で「近畿地方の産業」について調べ、地域の特色について学ぶ。これらを根拠として、本時の冒頭で、「考えるための材料」を根拠として、課題の予想を行う。
- ②「対話と思考」の場面で近畿地方が持続可能な地域になるために最も重視されていることを話し合う。
 - ・3～4人のグループを作り、各自の予想を根拠と合わせて発表する。
 - ・予想で出た意見をもとにして話し合いを行う。その際は、グループでホワイトボード(ダイヤモンドランキングなどの思考ツールが印刷され、グループの意見をまとめられるようになっているワークシートを挟んだもの)を使い、どんなことが重視されているのか、学んだことを根拠に話し合う。
 - ・必要に応じて、教科書、資料集、タブレット型端末、これまでのワークシートを参考にして考えるために必要な情報を確認したり、獲得したりする。
- ③ワールドカフェ方式で他のグループの発表を聞いたり、その時集まったグループで課題について協議したりする。
- ④再び最初のグループに戻り、最終的な意見をまとめる。
- ⑤意見をまとめたホワイトボードを黒板に示し、全体に向けて意見を発表する。

対話と思考(対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)

近畿地方が持続可能な地域となるために、最も重視されているのはどのような考え方であるか、自然環境や人々の暮らし、産業の取組を根拠にして考察する。(上記、想定される活動)

- ・授業の冒頭で課題の答えを予想する時間を取り、意見の共有を行う。
- ・優先順位を付けさせるためにダイヤモンドランキングを活用する。
- ・複数の班の意見を共有して、考えを深めていくために、ワールドカフェ方式で話し合った内容の共有を行う。その際には、聴く側の視点として、「自分の班と似ているところ」「自分の班と違うところ」を設定してメモを取りながら聴くようにする。
- ・聴く側の生徒が自分の班に戻ったら、視点に基づいて得られた情報を共有して、班の最終的な意見を話し合ってまとめる。

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

近畿地方では、自然や文化などの環境を守り、活用し続ける工夫をするということを最も重視していると考えた。

根拠としては、まず、京都の景観保護の取組があげられる。長い間、日本の首都として文化の中心にあったことから、現在でも多くの寺社仏閣が残り、それらを生かしながら街づくりを進めることで国内外問わず、多くの観光客が訪れる街となっている。しかし、近年はオーバートーリズムの課題を抱えており、持続可能にしていくための取組も行われている。また、産業や生活には琵琶湖の水が多く活用されている。一時は水質が悪化したこともあったが、これからも生活に不可欠な水源を確保するために、環境を守る取組をしながら、利用できるようにしていく必要がある。